

五・三一全大阪高校生総決起集会に起て!!

アナキスト高校生協会

△全大阪の高校生諸君▽

斗う高校生の運動は昨年の五・三一斗争において、新たなる質的地平を登場させた。我々は、憎悪の噴流を、高校生メーデーとして定着させるよう訴える。

△昨年の五・三一斗争とは何か▽

昨年のあの「五・三一」沖繩奪還大教組集会」において我々は、教師のいうところのあのエセスローガン「沖繩奪還」と言うものを高校生の立場からも追求する必要性があった。この必要性にもとずき我々は、全大阪高校生集会を呼びかけ、大教組集会に、我々のアピール文を読みあげることを、反戦教師の会を通じて数回要請した。

しかし、大教組執行部は自分達の言動が批判されるのを恐れて、回答を前日までのばし、そして最後まで回答しないことによつて実質的に我を無視したのである。

それに対して我々は各斗争グループの共斗でもって当日大教組集会に介入することを確認した。

五・三一当日に集会を開き、各斗争グループ（高校反戦・清反戦・高反委・F.I.H・大行動・茨工全斗委）の共斗による隊列をもつて大教組集会に介入していった。しかし、無内容な、まさに反動的な集会の内実をバクロされるのを恐れた大教組ダラ幹は、我々無武装の隊列に向つて日共Ⅱ民青の行動隊五〇〇名をあやつり、鉄パイプ、竹ザオ等でなぐりかかるといふ△帝国主義▽的な対応でもつて集会から暴力的に追い出し、又一般教師は、ただぼう然と見ていることによつて日共Ⅰ民青の行動を容認しつづけたのである。とりわけ、かかる状態を十分に知りながら何ひとつ対応できなかった主体性の欠如し、かつ、内実の欠落した△反戦教師の会▽は、その本質を、斗う高校生の前に自からバクロしたのであった。

その後、五・三一斗争に関して四名の代々木党員による斗う高校生への告訴という事態を発生させることによつて、自からの反教育性、反動性、偽善性とりわけ代々木体質を自ら全面的に認めるようなナンセンスぶりをしめたのであった。

しかし、その上、我々と直接的に関係している府高教では、我々がつきつけた内実を理解するどころか考えようとせずに入日共大阪府委員会▽の官僚の指導の下、府高教の腐敗しきつたダラ幹どもは告訴を支持するという反階級的革命的方針を打ち出しつづ、自己の裏切り行為をインペイすべく必死に策動したのであった。

△昨年五・三一斗争の意義▽

五・三一斗争の意義の第一は、前節で明らかにしたように教師が全く教育労働者としての質を獲得しえないという現実のバクロにあった。

とりわけ日共教師を先頭とする帝国主義労働運動の波が府高教を頂点として形成されつつあることのバクロでもあった。

第二の意義は五・三一斗争当日に脱走しておきながら、告訴事件がマスコミによって大々的に報道されるやいなや、大教組本部になぐり込むという斗争目的を見誤ったマスコミ病患者特有の政治力学主義・単純ゲバルト主義を丸出しにした△反戦高協・反帝高評△の低劣な体質がバクロされたことである。

そして第三の意義は、高校生運動の基本的水準を正しく定着させていく斗争の開始を大衆的に明示することに若干の限界を含みつつも成功したということである。

△五・三一斗争の質と、昨秋期斗争△

質としての五・三一斗争は、我々の学園における斗争を組む中で、現実の教育労働者の運動が教師の運動でしかない内実をバクロし、かつ彼らの運動がプチブル・インテリゲンチヤにふさわしく、斗う高校生に背叛する△帝国主義△労働運動でしかないことをバクロした。それは同時に我々の側からの彼らに対する積極的な介入の必要性をも教えたのである。まさしく、現在の教師は反面教師としてのみ意義を持つものである。かかる教師対生徒関係は正しく日帝の一構造でしかありえず、この関係が斗う教育労働者と斗う高校生の高度な共斗関係に変革されねばならない。

ある時は、自分自身をも含めて隣の机の生徒が、あるいは教師が日本帝国主義を実体的にささえているのだということの自覚が獲得されていかねばならなかった。その若干の例が豊中高校差別糾弾斗争であり、あ

るいは東京の葛西工業高校斗争であった。

前者において斗争の質は、豊能地区高共斗を形成していったが、この質はセクトの政治力学主義・セクト主義のバックと無内容なひきまわしの結果、ついに発現、展開することのないままに終焉した。これと同じことが九・一八府教委通達紛砕斗争の反戦高協とこれに追隨する諸セクトの分裂策動による結果としての統一行動の破産、あるいは全大阪高共斗の内実がセクト野合によるデッチ上げであったために、秋期安保決戦前後のセクト間抗争によってあえなくパンクするといった結果になって表出された。

五・三一斗争の提起した質はついに秋期斗争においては発現、展開することがなかった。この根拠には勿論諸セクトの質的低劣さもあるが、それ以上に我々の側の主体的力量の弱さ、あるいは質の未熟さが根本的なものであったという事は残念ながら認めなければならない。

まさしくこのことの結果として、日帝に対する斗争は政治力学主義的に歪曲された内実でしか斗われることがなかったのである。

しかしながら、その後、東淀川高校、あるいは枚方高校に象徴されるごとく、学園内斗争はようやく大衆自身を斗争過程に登場させはじめた。けれども、その大衆自身の質的未熟と諸セクトの政治斗争至上主義的単純ゲバルト主義によって、斗争は時には歪曲され敗北する他なかったのだが、明らかに過去の運動構造を突破し始めた。新たな運動の質的展開を展望することが出来る地平に、大衆運動それ自身の目的意識的な構築を展望する地平によりやく我々は浮上し始めたのである。すでに、セクト野合の表看板となりさがった全大阪高校生共斗会議は、急速に崩壊過

程へ突入していったのである。

△四・二六一四・二八斗争の意義▽

昨年秋期安保決戦の敗北後、ますます我々の運動が公然たる展開を要請されるという状況となった。我々は諸セクトの党派主義、政治斗争至上主義を根底的に乗りこえるべく、我々アナキスト高校生協会を組織しつつ四・二六一四・二八斗争を全大阪の革命的高校生諸君と共に諸セクトの分裂策動を突破して、個別、原点からの日常的永続的叛乱を形成しつつ結集した各校全斗委、あるいは、各地区で高共斗の同志と共に四・二六において一五〇名、更に四・二八においては二〇〇名という高校生戦線における最大集団として登場させることに成功した。

かかる高校生運動の革命的前進にウロタエ、自己の党派的頭脳では今や何がはじまったかかを理解しえぬ諸セクトは、消耗のドン底にたつき落されたのであった。四・二六一四・二八斗争の高校生戦線における意義は第一に自称「左派高共斗」に反戦高協の内実が上部組織革共同の政治動員組織にすぎないことを大衆的にバクロしたことである。

これは、彼らが四・二八首都総結集なる方針の下にわずか数名を送り出し、大部分の者は日和見を決めこんだことによって決定的なものとなったのである。

これと全く同じ質でしかないことをわが反戦高連（革マル派）の諸君も又、全共斗委から党派隊列へ逃走することによって自からバクロしたのであった。

第二の意義は、自称「右派高共斗」に反帝高戦・全高斗戦・反帝高評等による諸党派野合ブロックがF.I.H・H.F.Lを含めても、四・二八に

はわずか二八名しか結集しえないという事実にも明らかのように「右派高共斗」は実質的に崩壊したということの大衆的にバクロしたことである。そして第三の意義が全ての諸党派の無内容な方針を乗りこえて、斗争高校生の大衆的結集が獲得されたということである。それは、高校生運動の結集軸が形成され始めたということであり、敵対する諸党派を突破して大衆運動それ自体の目的意識的な構築が現実を開始されたということなのである。

△高校生メーデーとしての五・三一▽

全大阪の高校生諸君

昨五・三一の質が新たなる高校生運動の起点となったことを確認し、我々は革命的高校生運動と革命的労働運動との結合を展望しつつ、五・三一斗争を我々斗争高校生メーデーとして提起する。

ところで、五・三一斗争の取り組みをめぐって、今や崩壊消滅の危機にヒンした一切のセクト諸派は、無思想無展望無節操なるべ平連を拘きこみつ、唯一延命策として五・三〇全大阪高校生統一行動を計画し実現せんとしている。だが、セクト野合によるこの乗り切り策は、何一つ五・三一斗争の提起した質を発現しうるものではなく、自己のミスボラしい姿を互いに身を寄せあうことでカバーしようとするものにすぎず、その体質はボルシエビキの名にも値せず、その集会は我が前進する革命的高校生運動にとって一つの阻害物となってしまう。

さて、彼ら八派系諸セクトが五・三一斗争を五・三一へとズラした背景には、五・三一アイバノ斗争がひかえているのであるが、このことは五・三一斗争からの逃走のためのキベンにすぎないものである。五・三

トであり、大義名分の全共斗は、守口高、河南高及び桃高スト実の三ヶのみであった。即ち、五・三〇統一行動の実体は、諸セクト（反戦高協四五名のうち十五名は非高校生、四トロ、HFL、守口高野合集団二五名、高反連二〇名）、更に一人の現役高校生もないブントは「共青」の旗を押し立てて登場し、全高斗連と野合し二〇名、そしてかかる八派に追随するベ平連三〇名、全共斗として唯一隊列を保持したのは河南高のみという結果であった。

集会は各セクト毎にくりかえされ、全体集會がもたれたのはデモ出発直前の三〇分で、形式的にも発言は各セクト毎の発言であった。かかる集會の実態を見ていた奈良から来た某高全斗委は、その名とその実のあまりの差異にアキレはて、ついに全員が帰ってしまうという事実さえ起きたのであった。明白にあまりにも明確に、セクト野合の五・三〇行動はパンクしたのである。それは彼らの乗り切り策動が失敗したということでもある。全く集會に参加していない全共斗の名をデモ申請に記すなどの行為は、彼らの体質がスターリン主義そのものであることを教えているのだ。運動者としての倫理すら消失している彼らは、ある地区においては五・三一ステッカーの上に、彼らのステッカーを重ねて張るなどの卑劣な行為をなしている。この犯人は、官僚集団Ⅱ反戦高協である。我

我はかかるバカを紛碎しつつ前進していかなねばならない。

第二の点は、彼らのデモコースに表出されているように、五・三一斗争の質も意義も何一つとして理解することできない分子による、野合行動であることを自らバクロしてしまっているということである。

彼らは、日帝打倒を単なる言葉としてのスローガンに歪曲してしまつて

いる。即ち、帝国主義本国における反帝斗争の構築は、単に対政府斗争なのでも、それを「頂点」とする政治斗争至上主義的斗争なのでもなく帝国主義社会総体に対する重層的な反帝斗争なのでなくてはならない。この斗いは両隣の机との斗いであり、向三軒両隣との斗いであり、そして何よりも自らの根拠との実名での斗いなのである。勿論、かかる重さをもった斗争を諸セクトはになうこともできず、それ故、単なる政治動員組織という体質からして、本日五・三一斗争から逃亡しているのである。彼らは内なる帝国主義を自覚しえず、又、自分自身をも対象化しえないが故に、デモを大教組一府高教へではなく、府教委へと向けるのである。彼らに五・三一周年を語る資格はない。彼らには五・三一斗争が提起した質も、そしてこれを出発点として形成され始めた新たな質をもった我々の運動も、全く理解することができない。それは日共Ⅱ民青がトロッキズムを理解しえないのと同じことなのである。我々は平和と民主主義運動がその終着駅として形成したかの八自警団Vと対決し、これを解体打倒することのできる運動を着実に形成することができなければならぬ。大教組へのデモは、革命的高校生運動の更なる出発点である。（この点に関して反戦教師の会は極めてまじめな反省が要求されている。）

そして、第三の点は、五・三〇に結集した野合集団が、象徴的結集軸をもはや創出することが、少なくとも大阪の高校生戦線においてはできなくなったということが、四・二六―四・二八に続いて大衆的にバクロされたということである。八派系諸君ノもはや君たちの出る幕ではないのだ。これからの運動は、大衆自身の、大衆運動の自立を獲得する地平

に立った、自己存在の根拠をあるいは日常生活構造を対象化しつつ、不断にこの我々自身の根拠と対決しつつ変革していく斗争でなければならぬ。天下・国家を論じるほうが、日常性の変革を語るよりも意識が高いのだと思ひこんでいるバカは、その程度に自分の意識が低いのだということを自覚しなければならぬ。

以上、三点にわたって述べたように、本日三十一日の集会は、三〇日の集会比較するとき、明白な差異が存在する。すべての革命的高校生運動を、各校全斗委から各地区高共斗へと発展させつつ、不断の自己変革と社会変革を、社会革命へ向けて形成せよ。

本日の集会に関して、おおよそ五・三〇集会か批判する中で、そのもつ方向を明らかにした。けれども、我々はこのことを言語として終わらせなくてはならない。これを現実運動として定着、深化させることができないければならない。

セクト・コンプレックスをもったアンチセクトでは、かかる内実をもつた運動は形成することができない。我々はセクトから自立したノンセクト運動を強化していかなければならない。革命は大衆の事業である。アナキスト集団はその助産婦である。セクトは権力機関である。それは軍隊である。プロレタリア独裁とはプロレタリアに対する独裁でしかありえない。我々高校生アナキスト協会の原則的質は、**反権力・絶対自由、反帝・反マル・無政府共産**である。官僚になろうとする者がいても、絶対に官僚にはなることのできない構造の運動体である。

ところで、最後にやはり、五・三一斗争の革命的意義について集約し

ておきたい。本日の五・三一斗争は高校生戦線においてというよりも、現実の階級斗争そのものの中において、その本質的な意味をもつものであり、我々の反帝斗争は社会革命の過程そのものであることを自覚し、最後まで斗い抜くことができないければならないし、運動を主体的になうことのできる同志を急激かつ大量に、しかも質を高めつつ創造していくことが、現実獲得されねばならないのである。

△生徒・教師・関係を解体し、革命的高校生と革命的教育労働者の高度な共斗関係を創造していくことこそは、我々の主要な任務の一つである。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

五・三一大阪高校生総決起集会

△スローガン▽

★五・三一告訴弾劾！

★府高教告訴支持弾劾！

★個別学園管理体制・不当処分紛砕！

★高校教育の帝国主義的改編紛砕！

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

反権力・絶対自由！ 反帝国主義！

反マルクス主義！ 無政府共産！

（五・三一）